

中部地方は「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」として国に指定を受けた航空宇宙産業の一大集積地だ。

ボーイング777Xや787をはじめとした航空機の製造組立、修理や、H2・H3ロケットのエンジンや機器の設計製造、炭素繊維を使った新しい航空機素材の製造が行われていて、日本の航空機部品の約5割が中部地方で作られている。本校エアロスペース科はこうした航空宇宙関連産業の一翼を担う企業が就職のターゲットとなる。新型コロナウイルスの

ものづくりの技術

中日本航空専門学校就職
キャリア支援センター長 市原敏朗



影響で航空機需要が落ち込み、民間航空機の部品サプライヤー企業は大きな影響を受けたが、コロナ後に向けボーイング社やエアバス社に大量の航空機を発注するエアラインも出てきている。さらに日本の次期主力戦闘機開発の話も進むなど今後、航空機関連の製造受注が増えていくことが予想される。

航空宇宙産業は自動車などに比べ部品点数が多く、製造の裾野が広い。今年3月まで放送された朝ドラ「舞いあがれ!」も、航空機に高品質なネジの供給を目指す中小企業の物語だった。また池井戸潤の小説「下町ロケット」は、町工場が大企業に負けない技術力で大型ロケットの部品供給に挑戦する話だ。

就職担当として企業の方から話を伺うと、特定分野に卓越した技術力を持つ企業が多いことに驚く。もう一度人生を歩めるなら、そうした企業に就職し、ものづくりに取り組みてみたいと感じる。学生には各企業の技術力や魅力に着目し、企業ブランドだけではなく夢を形にできる会社を見いだし、航空宇宙産業の発展に貢献してほしい。